

研究タイトル：

# 船舶機関資源管理の改善に関する研究



氏名：	山下 訓史 / やました さとし	E-mail：	yamashita@ship.yuge.ac.jp
職名：	商船学科 助教	学位：	準学士
所属学会・協会：			
キーワード：	船舶機関士／船舶運航管理／安全管理技術／ERM(船舶運航資源管理)		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船舶運航管理</li> <li>・ERM(船舶運航資源管理)</li> </ul>		

## 研究内容：

海洋基本計画における施策「海上輸送の確保」の一貫として「船員の確保・育成」の重要性が示され、より高いレベルの管理能力を有した日本人船員の継続的な輩出が指摘されている。また、国際的には STCW 条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）が 2010 年マニラ締約国会議で改正、2017 年 1 月に完全実施された。今回の改正で従来は附属書 B 勧告指標として概念的に示されていた ERM(Engine-Room Resource Management:船舶機関資源管理)が附属書 A として明示的に強制要件化され船舶機関運転管理における人的要因による安全確保の重要性がますます高まっている。この改正は、資源管理におけるリーダーシップ、チームワーク、明確な意思表示、状況認識力、チーム構成員の経験といった非技術的スキルを含む資格要件が明記され、船舶機関運転管理における人的要因による安全確保の重要性がますます高まっている。本研究では、ERM 訓練の効果を高めるため、行動指標を取り入れた訓練プログラムの導入に加え、訓練によって何のスキルが身に付き、何のスキルが不足しているかを客観的に評価する。これは、船用機関資源管理の改善と向上のための指針を探ることができ、安全で安心な海上輸送の確保に貢献ができる。

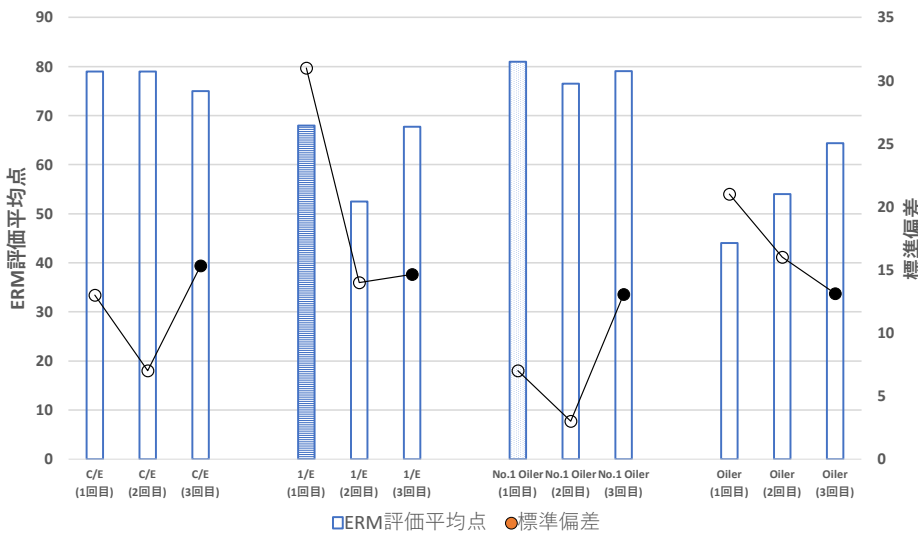


図 1. 行動指標を取り入れた各計測者別 ERM 評価傾向



図 2. 実験風景(練習船弓削丸)

## 提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	